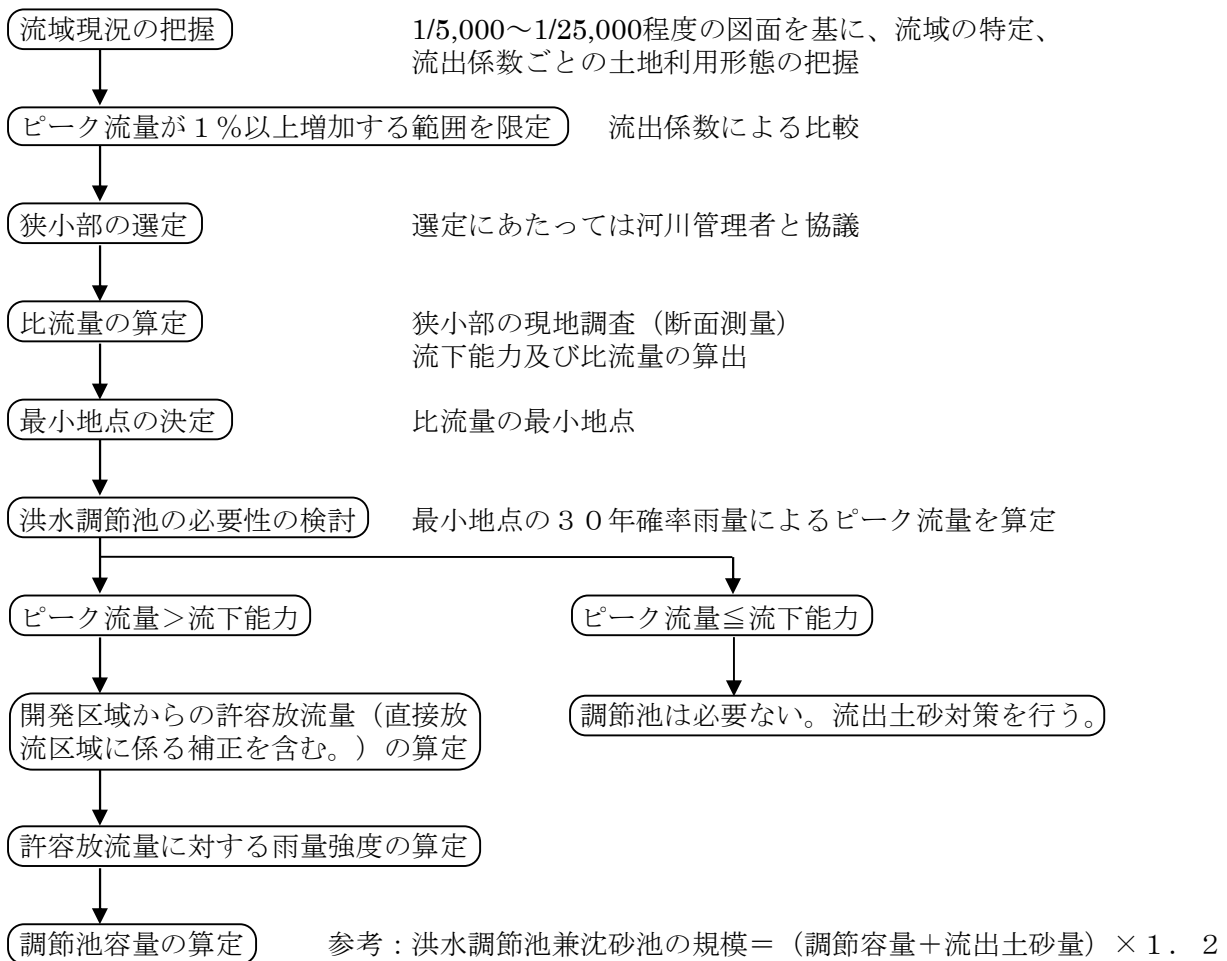


## (参考) 洪水調節池に関する計算について

### 1. 洪水調節池の計算手順



### 2. 洪水調節池の必要容量算定方法

- (1) ピーク流量が1%以上増加する区域を特定し、その区域内のすべての狭小部を選定する。流下能力変化地点ごとに選定する。

$$\text{ピーク流量が1\%以上増加する範囲} = \frac{\text{開発区域面積} \times \text{開発区域の流出係数の差}}{\text{開発前の流出係数} \times 0.01}$$

※この数値から最下流地点を求め、それより上流域について狭小部の検討を行う。

- (2) 狭小部各地点の比流量を算定し、その比流量が最小となる地点を選定する。
- 各地点の横断測量をする。（断面積、潤辺、径深等を求める。）
  - 各地点の流下能力を算定する。  
流下能力(m<sup>3</sup>/sec) = 流速(m/sec) × 断面積(m<sup>2</sup>)
  - 各地点の比流量を算定する。  
比流量(m<sup>3</sup>/sec/ha) = 流下能力(m<sup>3</sup>/sec) ÷ 集水面積(ha)
  - 比流量の最小地点を選定する。

- (3) 最小地点の30年確率雨量によるピーク流量を算定する。  
ピーク流量 > 最小地点の流下能力 となった場合は、洪水調節池を計画する。